

議会だより 入善

にゅうぜん



[写真]私の順番まだかな!!
芦崎保育所もちつき

12月定例会

- ★一般会計補正予算の概要……………2P
- ★一般質問(9議員)……………4P
- ★常任委員会レポート……………14P
- ★行政視察レポート……………16P
- ★選挙管理委員と補充員選任] ……18P
傍聴席からひとこと



兵庫県南部地震、被災者のみなさまに
心からお見舞い申し上げます。

「たのしみですちや」

喜ばれるディサービス

12月定例会

一般会計補正予算



今回の定例会では、既定の歳入、歳出予算の総額にそれぞれ1億391万1000円を増額し、予算総額は110億8367万7000円となった。
歳入の主なもの、特別交付税（除雪対策費、2000万円）、国庫補助金（在宅老人短期保護事業、207万8000円）、不動産売り払い収入（5700万円）、前年度繰越金（2559万円）などである。
歳出の概要は次のとおりである。

◆宅道除雪に助成

おおむね65歳以上の「ひとり暮らし」や世帯主が重度心身障害者などの宅道除雪に助成する。
一冬期間、5000円以内。
(70万円)

◆在宅介護を支援

お年寄り（在宅老人）を短期間（原則、一週間）、介護する事業（昭和54年度より実施）がある。
最近、利用者が増加し舟見寿楽苑に委託している費用の増額である。
(418万9000円)

◆中央通り線の整備

中町・上町線（約370メートル）に関連する代替地を購入する。
(3455万8000円)

◆庁舎の一部を改装

平成7年から、新しく下水道課と用地課が誕生する。
一方、統合される課はスポーツ振興課が生涯学習課、都市計画課が建設課に統合する。
また、一階のロビーを広くするなどの費用である。
(320万円)

◆除雪の対策

町民の日常生活や事業活動に支障を及ぼさないよう、37業者に除雪を委託している。
(2512万円・総額6471万5000円)

◆「下山芸術の森」

開館

4月中に、「下山芸術の森」アートスペース（旧発電所）が開館の予定であり、開館記念事業を行うための準備費用である。
(210万7000円)
※篠田守男展（日本近代彫刻の展開など、元筑波大学教授）

12月定例会 議事日程

12月7日(水)

- ・平成6年度入善町一般会計補正予算など10議案・提案説明

12月8日(木)

- ・一般質問通告締切
- ・議会運営委員会

12月12日(月)

- ・一般質問

12月13日(火)

- ・一般質問
- ・請願書(2件)・陳情書(4件)の説明、陳情
- ・議案質疑

12月14日(水)

- ・総務常任委員会

12月15日(木)

- ・文教厚生常任委員会

12月16日(金)

- ・産業建設常任委員会

12月20日(火)

- ・平成5年度入善町歳入歳出決算の認定
- ・各常任委員会の審査報告
- ・入善町選挙管理委員・選挙管理委員補充員の選任
- ・議員提出議案(第12号)第55回国民体育大会開催に関する決議
- ・議員提出議案(第13号)道路整備促進に関する意見書
- ・議員提出議案(第14号)建設省黒部工事事務所の防災・地域生活関連公共事業費拡大と機構拡充を求める意見書
- ・議員提出議案(第15号)入善町議会議員定数減少条例制定について



▲また、いらつしゃい

決算特別委員会

平成5年度 入善町歳入・歳出決算を認定

平成6年9月30日開催の議会定例会において付託された平成5年度決算認定について、5名の議員をもって決算特別委員会を構成した。

13回の審査を重ね、その結果を12月20日開催の12月議会定例会に報告し、賛成多数で認定すべきものと決した。付帯意見の主なものはつぎの通りである。

◎評価すべき点

- (1) 町民待望の総合体育館の完成。
- (2) 企業誘致した北陸アサヒビール飲料製造(株)の操業開始。
- (3) 合併40周年記念事業の実施とNHKのご自慢で町をPR。

◎改善すべき点

- (1) 予算の組み立てと執行後の差異について不用額の内容吟味。
 - (2) 用地交渉における前渡金について基準を制定すること。
 - (3) 職員の超過勤務制限は無理無駄のないよう、仕事本位で対応すること。
 - (4) トイレ等、公共施設の維持管理のあり方の再検討。
- おおむね、以上を指摘し、今後の町政執行の糧とされるよう望むものである。
- (報告者・本多幸男委員長)

- (4) 医療レセプト点検の専門員の努力と実績で適正医療の推進。

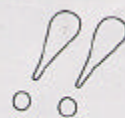


▲除雪体制は万全に!!

第9回 定例会 一般質問

12月12日(月)・13日(火)の定例会では、9名の議員が登壇し、町政の執行状況、来年度の基本政策・財政計画、健康ふれあいプラザの構想、町民総合計画の見直し、新川拠点都市の構想、水の確保、シルバー人材センターの法人化構想、住宅団地造成、高齢化社会を支える保健・医療・福祉・老人保健福祉計画の構想などについて

町政を問う



発言者と質問要旨

早川誠一議員(自民党代表) ……5P

- (一)町政の執行状況と来年度の基本政策、財政計画
- (二)教育行政
- (三)農業対策

東狐 和議員(町民クラブ代表) ……6P

- (一)町政執行の基本姿勢
- (二)新年度の福祉政策
- (三)青少年健全育成に関する学校教育問題

福沢憲一議員(自民党) ……7P

- (一)組織機構の改正
- (二)町民総合計画のローリング

広瀬喜代志議員(自民党) ……8P

- (一)年金制度の改正と残された課題
- (二)新川拠点都市の構想

西尾政巳議員(自民党) ……9P

- (一)せまり来る食糧不足
- (二)次世代への資産として残すべき水の確保

本多幸男議員(社会党) ……10P

- (一)シルバー人材センターの充実と法人化構想
- (二)入善町スポーツ振興行政の基本姿勢
- (三)公営機関、出先施設の人員配置及び業務委託のあり方

岡島 功議員(自民党) ……11P

- (一)地方拠点都市構想
- (二)行政執行のあり方
- (三)住宅団地造成

九里都子議員(日本共産党) ……12P

- (一)ごみ袋指定と行政のあり方
- (二)高齢化社会を支える保健・医療・福祉とは
- (三)高額療養費委任払い、3歳未満児の医療費無料化、入院給食費助成について

田原 進議員(自民党) ……13P

- (一)老人保健福祉計画の構想

総合計画を見直せ!!

町長 検討したい。



早川誠一議員
(自民党)

早川誠一議員 平成6年度予算110億8400万円はすべて町民の要望と21世紀に備える町づくり予算である。

今年度もあと3か月となり、計画された事業の執行状況はどうか。

柚木町長 町では限られた財源の中で、計画に基き効率的に予算配分を図り、学校建設や幹線道路等、少ない経費で最大の効果を期待して事業を進めて来た。今年度は前年度の繰越事業4億7800万円と合わせ、115億6200万円の事業執行であり、現在まで、全体で64%の執行率となり、残された期間内の達成に全力を傾注する。

早川議員 新年度の財政計画は国県、地方を問わず、きびしい経済不況の中で税収減が伝えられている。

町税収入1億8800万円の

減収が予想され、新年度の公債残高も89億を上回るなど、後年度事業への影響が懸念される。

今後の学校、下水道、ごみ、高齢化対策など財源の一大需要期を迎える新年度の財政計画を問う。

町長 国の新年度の財政状況も税収の3年続きの減少など異例の事態となっている。

このため、歳出の抑制、公債依存度の引き下げに最大の努力をほらい、行財政改革を進め、新年度の編成に当たりたい。

一般会計予算は、115億を超えると予想している。

歳入では、国県支出金や新たな財源を求め、歳出に一層の行財政改革を図り、予算執行に当たりたい。

早川議員 総合計画の見直しと、さきの議会地域活性化特別委員会も計画の一部見直しを求めている。

総合計画は、21世紀に向けて町の活性化と町民生活に役立つことが最大の目的である。飾り物施設やオレゴン州交流ハウス等は町民が望むか。

ゴミ対策、高齢化対策、下水道、学校などが急務である。見直す考えはないか。

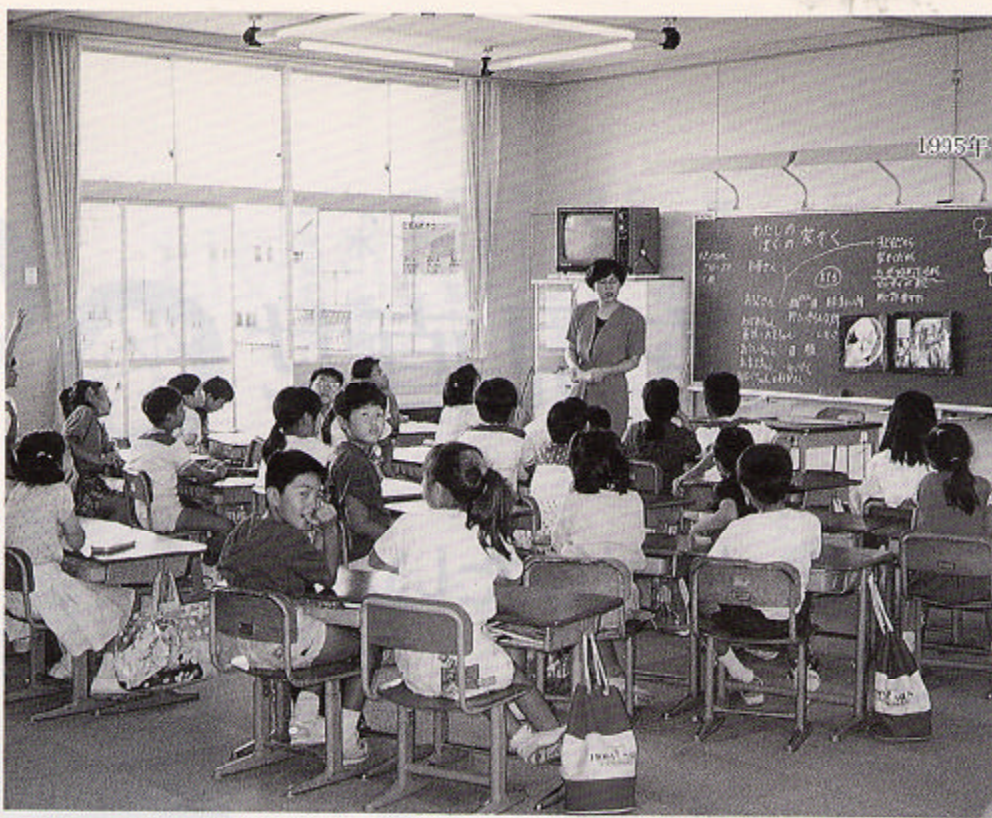
町長 総合計画は町の行政運営の基本構想であり、町づくりの施策である。

今後町民の声を聞きながら事業を進め計画の見直しを図り、新年度予算編成で検討したい。

今後もローリングの機会に検討して行きたい。



▲「下山芸術の森」町民に愛されるように……



▲みんな仲よくしようね。

町財政の基本姿勢は

町長 引きつづき健全財政を維持

東狐和議員 町税の収入見込みと、今後の財政運営を問う。 柚木町長 景気が回復基調にあると言われており、喜ばしいことである。

国や地方自治体の税収は、景気の動向に左右されるからである。

税収見込みについて、町民税は、当初見込みより1000万円の減、固定資産税は1億6000万円の増となり、当初予算比、1億5000万円の増となる。町税全体では、28億75

35万円の見込みである。町税の増額分については、事業の追加や基金積立の減額などをして、健全財政の運営に努力したい。

東狐議員 「彩りとやま緑化祭'96」が県西部に集中する理由は何か。

町長 県西部に集中しているのは、都市計画法に基づく都市公園の指定を受けることが条件となっているためである。 県民ぐるみで日本一の花と緑

の県づくり、緑化運動にしたい。

東狐議員 町民ふれあいプラザの構想について聞きたい。

町長 急速に進む高齢化社会に対処し、しかも町全体の発展と活性化を図ることが肝要である。 中央通り線の整備に合わせて、

商店街の再開発の一環として町民ふれあいプラザは、旧中央公民館跡地を中心として、人の集まる場になりたい。

東狐議員 新年度の福祉に関する基本政策はどうか。

町長 一人暮らし老人の宅道除雪費の援助や、タクシー券の助成、ベッドなど日常用具の給付も引き続き行う。

東狐議員 子どもを産み育てやすい環境づくり対策はどうか。

町長 午後5時半まで延長保育を二か所増設したい。

東狐議員 いじめ対策と学校図書館充実をどう考えているか。

本多教育委員長 各小中学校に いじめ防止対策委員会を設置し、PTAのあり方についても協議したい。

学校図書館に専任司書の配置については、民間の専門家に委託することも考え、前向きに対応したい。



東狐 和議員 (無所属)

機構改革で町民への サービスはよくなるか

町長 21世紀を展望したもので心配はない。



福沢憲一議員
(自民党)

福沢憲一議員 役場の組織機構の見直しの提案について、下水道課の新設などは評価できるが、問題も多い。
都市計画課の廃止は、該当する事業が少なくなっているという理由で解したのか。
また、工事検査員を主に建設事業を発注する課に配置変更することは、なれあいにならないか。
柚木町長 町として、「21世紀を展望したもの」「住民の要望に対するもの」「政策を遂行できるもの」の観点から、町の各課長会議と6名の町民代表からなる機構改革懇話会で検討した。都市計画課と建設課を統合しても、町中心部の再開発をおさりにしているわけではない。事業の遂行に支障はないと考える。検査員を所属替えしても、検査の基本的な考え方はいっしょであり、職員を信頼している。

企画財政課長 用地課の新設は、現在各課で用地関係の仕事をしているが、対応がバラバラな面もあるので統一させるものがある。
福沢議員 総合計画の実施計画(平成7年度より3か年)をみると、財政調整基金は3億6900万円減、減債基金は10億3200万円減である。
一方、公債残高は12億4100万円増であり、一般家庭で例えれば預金が14億100万円減り、借金が12億4100万円増える計画である。あまりにも箱物の新築や改修の費用が多いのではないか。
財政負担の大きい下水道事業や幹線道路網整備など生活環境整備をどう考えているか。
町長 3か年について見直し、まとめたもので、大きな事業を実施するときは基金を取りくずし、

終わればまた積み立てればよい。議会の中にも積み立てばかりせず、福祉などに使えばよいとの意見もある。下水道にしても、栢山・横山の統合小学校建設終了後に取り組む考えである。健全財政を堅持しながら町民の要望に対応したい。
企画財政課長 必要に応じて基金を取りくずすのは当然であり、積み立てていく考えである。



▲町民が利用しやすい機構とは……

高齢者の雇用対策はどうか

町長

生きがい対策を充実する



▲私の年金はどうなるの……

広瀬喜代志議員 今年十一月二日に、厚生年金、公務員共済制度等の支給開始年令を65歳へ引き上げることを柱とする年金改革法案が成立した。

これに伴って政策的にも変化が生じるが基本的な考えは、**柚木町長** 今回の法改正による影響は大きい。

本町においても、雇用の安定、生きがい対策としてシルバー人材センターの法人化を考えている。

町は来年度より60歳定年を完全実施したい。

また、高齢になると適応力、能力、体力に個人差が生じてくるが、これらの事も充分考えて、この問題を将来の最重要課題として取り組みたい。

広瀬議員 県西部地域に続く県内2か所目の地方拠点都市として新川広域圏が指定されると聞くが、町として何を重点的に考えているか。

町長 新川広域圏が指定されれば、県下第3番目の人口を擁する新川圏として位置づけられる。

町としてはキーワードを「水」として、現在の北陸アサヒビール飲料製造機が本格的なビールを製造する会社になってもらいたい事、水の博物館を建設し、黒部川の歴史を数多くの人々に知っていただきたいと思う。

5市町が力を合わせて、新川拠点都市構想づくりに努力をしたい。

広瀬議員 ガット・ウルグアイ



広瀬喜代志議員
(自民党)

ラウンドによって、大きな国内対策が行われると聞いているが、その内容はどうか。

農政課長 国内対策費として、6兆100億円が向う6か年間に実施されると聞いている。

公共事業費として3兆5500億円、非公共事業費として、1兆6900億円、融資対策として7700億円がこれから6か年において実施される予定であり、ちなみに1か年約1兆円である。

今後の推移を見守りたいと思う。

迫りくる食糧不足を どう認識しているか

町長 将来に備えて、対策を



西尾政巳議員
(自民党)

西尾政巳議員 世界に185か国以上の国があっても、日本に食糧や飼料を輸出してくれる国は、2、3か国しかなく、来る21世紀は、開発途上国の人口急増問題や毎年600万以上の耕地が砂漠化している現状をどう思うか。

柚木町長 先般、インドネシアを視察して、人口急増問題を実感してきた。

国土は日本の5倍位だが、毎年300万人以上増え続け、一年間に富山県の人口の3倍以上が増え続けている。

日本では実感できない程の増加ぶりである。

西尾議員 現在は円高基調であり、将来は、円安になる恐れがある。

そうになると、輸入食糧は高騰する。

町として対応をどのように考えているか。

青木助役 いつまでも円高が続くとは思わない。金にもものを言わせて食糧を買う事は出来ない。

輸入食糧は安全の面からも重大な問題があり、後継者対策も含めて、集落営農地区が3地区あり、農協と一体となって農業を守り続けたい。

西尾議員 近頃、井戸の水位が下ったという事を聞くが、地下水の保全是万全か。

町長 入善町ほど地下水に恵まれた所はなく、一日の揚水量は、25万リットルが限度ではないか。現状では一日当り10万リットルを下回って

いて、まだ余裕がある。

西尾議員 舟川ダムの進捗状況はどうなっているか。

町長 県へ陳情の結果、小規模生活ダムとして採択された。現在は地質調査中であり、平成10年度から事業に着手する予定。ダムの高さ50m、長さ165m、取水面積3平方キロ、貯水量60万立方メートルである。

西尾議員 水の博物館構想について。

町長 知事は置泉11年であり、川の年にしたいと言っている。入善町は黒部川の水との関いの歴史があり、歴史を充分理解してもらい、地域の活性化に結びつけたい。



▲冷めたくてオイシイネ(水公苑)

シルバー人材センターの

実績と今後の構想は

町長

平成七年に法人化をめざす



▲生きがいと実益をかねて……

本多幸男議員 高齢化社会に対応して生きがい事業政策は極めて重要である。

シルバー人材センターの現状と将来展望をどのように考えているか。

本多町長 平成2年10月に発足した入善町シルバー人材センターは、当時70名で出発したが4年後の今日、登録人員17名、契約金額4200万円余となつて

いる。

この実績を尊重し長寿社会に対応して、さらに飛躍的發展を期す為に平成7年に法人化をめざし、厚生省や県に働きかけた。法人化が認可されると国県補助が1920万円期待できる。町の財政負担が60万円伴うが、これからの長寿社会の生きがいと健康、体力づくりを考えれば当然、重要課題として取り組ま



本多幸男議員
(社会党)

ねばならないと考えている。

本多議員 今回の機構改革で用地課の新設等はわかるが、スポーツ振興課を生涯学習課の一係にするのは時代に逆行している。

役場の機構は町民ニーズを的確にとらえ、政策と仕事が解り易いものにするのが本来の姿ではないのか。「学習スポーツ課」とする考えはないか。

また環境保健課と福祉課の業務のうち、老人医療と福祉行政等を統合し、保育所行政・児童館の分野を切り離して専門に研究する体制を検討するよう提案したい。

町長 スポーツ行政を最重要課題に位置づけ体育協会に基金を積み、財団化した。

町民のスポーツニーズに今後も応え、力を傾注する。提案については検討したい。

本多議員 義務教育の中で各種スポーツ大会、音楽コンクール等に出場時、父兄負担をなくすよう予算措置を講ぜられたい。

町長 私は常々、義務教育の過程で父兄の負担に頼るべきでないとして強調している。

新年度予算で現状を改善する。

町にインターチェンジを

町長 現在は不可能



岡島 功議員
(自民党)

岡島功議員 地方拠点都市指定にあたり、水博物館構想は果全体の問題として強く働きかけてほしい。

博物館構想だけでは物足りないので私なりの構想について町長の所見を伺いたい。

まず、新川大北直結道についてどのように考えているか。

柚木町長 東京方面への連絡道として三ルートの構想がある。

現在調査中であるが、入善町としては朝日町から長野県白馬村へ抜ける案は身近かな案である。

直ちに地方拠点都市構想とは結びつかないが、働きかけてゆきたい。

岡島議員 入善インターチェンジについてどのように考えるか。

町長 高速道路建設当初ならば可能であったかもしれないが、現状では不可能である。その当時の町長は必要ないという認識であった。

しかし時代の変化に対応し、将来の夢として今後も考えてゆかねばと考えている。

岡島議員 深層水利用の養魚場についてどのように考えるか。

商工水産課長 県の水産漁港課も検討しているところであり、今後協議しながら進めていきたい。

岡島議員 平層川国道線を墓ノ木まで延長する考えはないか。

建設課長 現在、国道8号線まで考えているが、将来的に必要なとなれば計画していきたい。

岡島議員 松風団地は47区画中43区画が売却済みである。

今後、人口、税収の面からも団地造成を考えているか。また民間の企画に助成等を考えているか。

町長 今は新規計画を特に持たないが、今後も考えていく。

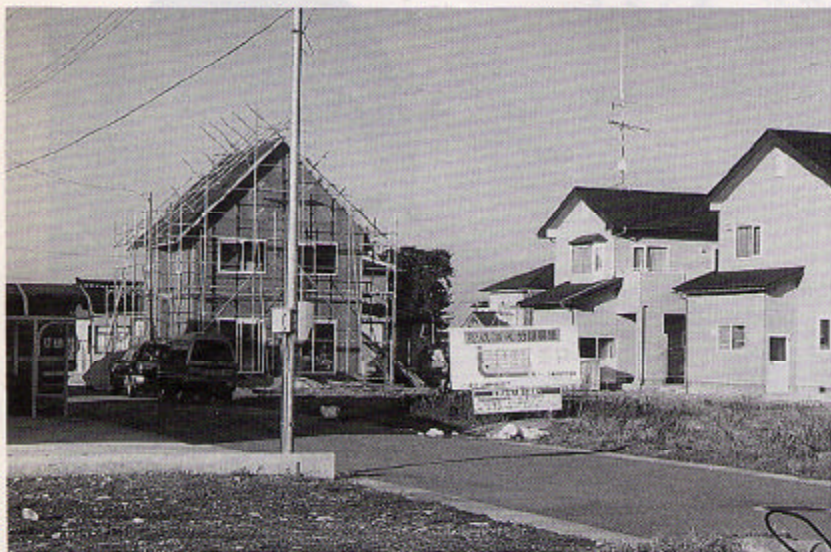
また、民間デベロッパーに対する助成についても検討したい。

岡島議員 旧長島邸、ひばり野小学校に見られるように、せっ

かくの計画も精査しないがために無駄が多いように思うがどうか。

町長 旧長島邸については、旧宅を寄附してもらい、土地だけを買い上げた。多少の見込み違いはあったが、当初の目的通りふるさと伝承館としたい。

学校教育課長 ひばり野小の非常階段は同時発注すべきであったが、工事施工上、外構工事と併行してやった方が良いたの判断で実施した。



▲町外からの入居者も多い松風団地

無意味な炭カル袋に

なぜ固執か

町長

炭カルは炉にやさしいと信じている



▲分別作業がたいへん

九里郁子議員 広報入善、11月号で指定ごみ袋の製造業者・卸業者・小売業者を募集しているが、決まってもいないのに取扱い業者を募集したのは、製造業者を競争入札で決めるためか。

ごみ袋一枚当りの発熱量は炭カル袋でも変わらず、全国的にも炭カル袋を使用しているところは少ない。炭カル袋は本当に炉にやさしいと信じているのか。説明会で示している、炭カル袋の見本を作らせている業者の手前、撤回できないというのが本音ではないか。

四種類のビンとスチール缶の収集体制は、かごの管理など町民の負担が大きすぎる。

また、月一回、朝の一定時間だけでは町民は協力しにくい。考え直すべきである。

製造・販売元の企業に、再利

用と回収を義務づけなければ解決にならない。

どこまで真剣に発生源対策を政府と企業に求めてきたか。

柚木町長 ごみの有料化ではない。個人のごみは横ばいか微増

事業所ごみは年々増加している。製造・流通・消費の三段階で減らす努力が必要。炭カル袋は

炉にやさしいと信じている。

九里議員 役場入口やロビーを広げるために、保健婦の武村福祉会館2階への移動は、あらゆる面で不便であり再考を求め。

近い将来建設される健康ふれあいプラザ完成後に、保健・医療・福祉を一体化してからでよい。

町長 町民が役場へ来ても、ゆとりがあった方がよいと思う。健康センターも近く、業務に

重大な支障はない。



九里郁子議員
(日本共産党)

九里議員 昨年12月議会で「高額療養費委任払い制度導入の請願」が採択されており、黒部市民病院では新年度から実施する方針と聞いている。

町も新年度からの実施を強く求める。

町長 貸付制度があり、支払いが大変だということがないのではないか。

富山市などで実施されているが、事務的に問題もあり、現状では実施できない。

九里議員 来年度から2歳児も医療費助成の対象にする考えは、福祉医療制度に入院給食費助成を復活する考えはないか。

町長 2歳児の医療費助成は来年度実施をめざし、内部で予算要求も含め検討している。

特別養護老人ホームの増設は

町長 今はむずかしい



田原 進議員
(自民党)

田原進議員 本格的な高齢化小
子化社会の到来を迎えて、町で
は、21世紀に向かって高齢者福祉
政策の指針である「老人保健福
祉計画」が平成6年から11年ま
での6か年計画が策定された。
計画では、在宅サービスを基
本とし、保健・福祉・医療の一
体的なサービスを図り、高齢者
の生活を守り、環境整備や、情
報提供などを推進し、地域の特
性を生かしたサービスの確保が
目的である。

町長の福祉計画に対する所見
を伺いたい。
袖木町長 平成6年度は老人保
健福祉計画のスタートの年であ
り、平成11年度までの6か年間
の目標に向かって鋭意努力を重
ねているところである。
中でも、特別養護老人ホーム
の増床などの施設建設は厳しく
規制を受けている。
幸い老人保健施設については
民間資本により、小杉地内で「こ
ぶしの庭」として来年4月に開
設され、施設の充足になる。
その他、軽費老人ホーム、在
宅介護支援、訪問看護などの施
設については、民間医療機関と
連携をとり、また、町民ふれあ
いプラザにその機能を充実させ
て対処したいと考える。

先の町政懇談会においても気
軽に利用できる託老所的な施設
を望む声も大きくなっている。
内容的には、入浴施設などを
備えた老人福祉センターや各地
区の公民館などを高齢者の憩い
の場として活用できるよう検討
して行きたい。
「笑顔で老い」を迎えるには、
家庭、地域、関係団体、行政が
それぞれ役割を分担し、長寿社
会に対処して行きたい。

「軽費老人ホーム」とは
利用者が施設長と契約し、
低額な料金で入所できる福祉
施設。
日常生活の維持ができる「ひ
とり暮らし」や夫婦のみの高齢
者が対象で、給食、入浴など
の設備が整っている。
県内4か所のうち、近くに
は新川ハイツ・魚津ハウス、
黒部笑福学園がある。



▲デイ・サービスでくつろぐお年寄り

12月14・15・16日の3日間、それぞれ総務・文教厚生・産業建設の各常任委員会が開催され、それぞれ付託された議案を審議した。各委員から審議の過程で出された意見の要旨を報告する。



庁舎内を一部改装

組織機構の改革に伴い、一階のロビー、三階の事務室など一部改装する。
限られた財源とスペースのなかで、どの程度のことができるか不安である。「間に合わせの」ではなく基本的な視点で対応すべきである。

「水」博物館の構想

21世紀を展望した先導的な地

新しい課が誕生
新年度から下水道課、用地課が新設される。

域社会づくりとして、「リーディングプロジェクト」制度を推進する。
計画の策定にあたっては業者の提案を鵜呑みにすることなく、初步の段階から担当職員が参画すること。
新川広域圏内の調整にも、充分、配慮するよう付言する。

21世紀の「まちづくり」をめざした前向きな姿勢は高く評価する。
しかし、用地課の仕事は用地買収と考えるが、建設課との連絡調整が十分に機能するように望むと共に、責任の所在を明確にし、効率的な処理が図られるよう付言する。

統合される都市計画課・スポーツ振興課

都市計画課は建設課の都市計画係となり、一方、スポーツ振興課は生涯学習課のスポーツ係となる。

都市計画課は中央通り線や市街地の面的な再開発など、ますます期待される今日、建設課に統合するのは看板と中身が一致しなくなるのではないかと懸念する。

一方、スポーツ振興課は「町民ひとりスポーツ」を目標にかかげ誕生したが、条件が整ったとして生涯学習課に統合するが、体育協会へのしわ寄せにならないよう、充分配慮すべきである。

ごみ袋の単価に異議

新川広域圏が今だに試行錯誤の段階であり、ごみ袋の売価決定は時期尚早である。充分な精査を経てから議案を提出すべきものと考えている。
(報告者・松沢孝衛委員長)



宅道除雪に扶助

「ひとり暮らし等」の宅道を除雪する場合、一世帯、5000円(冬期間)以内で扶助する。この制度は、弱者保護の立場から、時宜に合ったものと高く評価する。

今後は、運用面で充分配慮され実績を踏まえて、更に増額を検討されたい。

武村福祉会館の一部改修

環境保健課の保健婦がホームヘルパーとの連絡調整を緊密にするため、同会館にうつる。これに伴う改修であり、理解でき

る。
しかし、環境保健課が3か所に分散することになり、保健・医療・福祉の一体化や職員の間

定は時期尚早である。充分な精査を経てから議案を提出すべきものと考えている。
(報告者・松沢孝衛委員長)

「下山芸術の森」の維持管理

芸術は否定しないが、箱物を建てると維持管理費の増大が考慮される。
今後は、福祉や医療などにも一段の配慮を願いたい。

炭力ル袋は再検討を

ごみ袋の指定は、ごみの減量化と住民サービスの公平化を図るのが目的ではあるが、炭酸カルシウム入り袋は意味がない、単価が高いという意見もあり、閉会中の継続審査とし再協議する。
(報告者・西尾政巳委員長)



委 任 し 報 告



▲急ピッチですすめられる中央通り線
(武村福祉会館前)

除雪は万全体制で

町道の除雪距離は延長213
時(347路線)である。
町当局と37の委託業者で除雪
しているが路上駐車など障害の
ないように、町民の理解を求め
通勤通学路の確保に万全を期す
べきである。

中央通り線の 整備を急げ!

上町・中町線(約370m)

の用地買収が、ほぼ終了した。
一日も早く交通渋滞を解消し
町民生活の安定と商店街の活性
化のため、早期着工に向け努力
するよう求める。

観光開発の 活性化に力を!

県道の朝日・宇奈月線とふれ
あい温泉・舟見寿楽苑・パーデ
ン明日を結ぶ道路(約500m)
や橋の改良、舗装の計画(平成
6年1平成8年)がある。

早期完成をめざし、舟見地区
観光開発の活性化などに一層の
努力を期待する。

総合体育館・近辺道路 の整備が遅れている

運動公園・総合体育館・水の
小径などの機能を有機的に結び
つけている上田・新和線の拡幅
改良が切望されている。
町営施設の環境整備には、も
っと積極的な力を入れなければ
ならない。

(報告者・広瀬喜代志委員長)

議員定数2名削減を議決

議会最終日、提出者本田幸光議員、賛成者
5名をもって、入善町議会議員減少条例制定
についての議案が提案され、委員長の報告通
り賛成多数で決した。

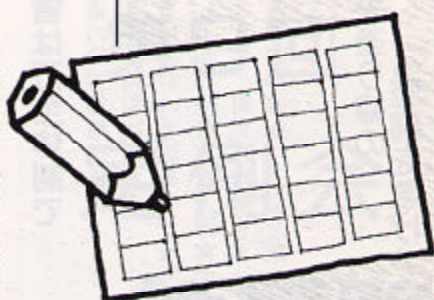
議員定数等 検討委員会報告

8名の委員をもって、昨年、
4月20日発足、以来5回にわ
たる審議と2回の県内調査を
重ね、結論として、2名減員
し、次回の選挙から定数を18
名とすることにした。

議員定数削減の声や、議員
活動の活性化、議員の資質向
上を求める住民の要望が高い
こと、また県内市町村の中に
は、自治振興会から削減の請
願が提出される等、今日的課
題として、議員定数は適切か、
定数削減の必要性はあるか等、
あらゆる角度から、意見を述
べ論議を尽くした。

●定数を削減しても議員資質
の向上や議会の活性化には
結びつかない。
●議会のチェック機能が低下
するのではないか。
●経費の節減としての観点か
ら考えれば、他にも改善す
べき事項があるのではない
か。

との意見もあった。
地方分権が論ぜられる今日、
常に大局を見失うことなく、
議会は行政全体に目を向け、
行政改革推進の範の一端とし
て、削減を判断すべきである。
自らの意識の改革、議会機
能を高める努力が肝要として
結論とした。
(報告者・本田幸光委員長)



行政視察 レポート

大分県

シビアな投資効果が求められる ごみ焼却施設

将来に向けて町づくりをどう考えるか。
当面する課題について、去る11月9日～12日にわたり行政視察をした。

- 大分県、日田清掃センターでは、ごみ焼却炉の選定、工事費をいかに安くできるか。
- 湯布院町では、温泉を活用した、「リゾート型町づくり」の現状。
- 熊本テクノ・リサーチパークでは、工業の誘致、育成策などを調査研究した。

新川広域圏でごみ焼却施設の建設問題が検討されている。議会では、最大の課題として今回、大分県日田清掃センターを視察することにした。

朝日町地内で建設が予定されている方式は流動床方式である。焼却法には現在、ストーカ炉方式と流動床方式がある。

両方式とも改良され、それぞれ一長一短があると言われている。平成2年に完成し、現在稼働中の日田清掃センターは、以前、ストーカ炉時には、残渣の埋め立て地へ、タヌキやカラスが集まることや悪臭など二次公害が問題化したことから、流動床方式を採用している。

炉の決定には、現場職員、関

係市町が精力的に調査、研究にあたった経過が報告される。

流動床の長所は(1)燃焼がよく、排ガス対策が容易、(2)炉温の低下が緩やかで、炉壁の損傷が小さい。(3)排煙が少なく、灰がきれいで、残灰はセメントで固め歩道等の下に埋め立てできる。

反面、短所として(1)建設費(2)修繕費(3)運転電気料等が高い等の要因がある。しかし作業効率、二次公害対策において、優位であると結論された。

工事費をより低くするため、各メーカーから提出された見積



▲複雑なごみ焼却フローの説明を聞く

り書を専門家の協力を得て、詳細に分析、検査、結果として大幅な削減に成功したと説明される。

漫然と他市町の積算を準用する従来の工事費の見積りのあり方に疑問を覚えると同時に創意工夫、努力することの重要性を痛感した。

新川広域圏に強く働きかけが必要であり、提言していきたい。

報告者

文教厚生常任委員長

西尾 政巳

大分県

日本一住みよい町

湯布院町の見どころ

湯布院町は、九州・大分県の緑と山々に囲まれた、農業と温泉の生活型観光地である。町の人口は1万1700人程

で、季節を問わず年間340万人の観光客が訪れ、旅館、民宿120軒を誇り、関連産業の生産高は約300億円を超える観光と商業



▲広い/ゆったり「ワワー・ジュ・ゆいん」にて

の町である。

湯布院町の行政の重点施策はつぎの四つである。

- 1、21世紀を担う人づくり
- 2、産業の振興
- 3、健康を創造する町づくり
- 4、健全な財政の確立

「町づくり」は「人づくり」と、社会教育はすべての行政に先行するとし、公民館活動の振興を掲げている。

産業面では、農業を守りながら、クアオルト構想(保養温泉地)を基に「クワー・ジュ・ゆいん」を核とし、自然と一体化した、住民参加の町おこしが進められている。

また、温泉を利用し健康づくり、病院、娯楽施設等は、土地を信託し、施設の建設・管理・運営が民間資本により町の活性化が図られている。

視察を終えて、自然を生かす工夫と町民生活に直結した施設など、教えられるところが多く、今後の町の施策に反映したい。

報告者

総務常任副委員長

岡島 功

熊本県

熊本テクノ・ポリス計画の

研究開発拠点

熊本テクノ・リサーチパークを視察する。

立地条件の良さに先ずは、感動を覚える。まさしく、緑の中に各研究施設が建ち並ぶ拠点。

熊本市街から東へ20分、熊本空港から2分の臨空公団地があり、熊本テクノポリス計画の研究開発拠点として整備を進めており、既に一大学、14企業が立地している。

テクノポリスセンター、熊本大学地域共同研究センターや、電子応用機械技術研究所が立地、研究開発の支援体制が整備されている。

特に人材確保には恵まれた環境

境にあり、圏域には工科大三校、高専一校、工科系高校10校がある。

即戦力になる技術者養成する電研研制度、Uターンアドバイザー制、ヘッドハンター等、優秀な人材確保に努めている。

何と言っても事業主体が熊本県であること、歴史的に見ても広く海外と交流してきた政治風土を強く感じた。

我が町もテーマを絞って、小型テクノポリス構想を考えるべきである。

報告者

産業建設常任委員長

広瀬喜代志



▲熊本テクノ・リサーチパークの全景

傍聴席からひとこと



西村 昂さん
(道市)

入善町の本議事を傍聴したのは今回で2回目です。1回目は昨年9月議会の一般質問で2人の議員さんの質問に対する町当局の答弁を聞いて議会の役割について少し理解をいたしました。

今回は本会議最終日の採決状況を傍聴するために議場に出かけました。平成5年度入善町歳入歳出決算認定について、決算特別委員会委員長より審査報告がなされ、討論、採決の順に議事が進められました。

次いで総務・文教厚生・産業建設の3常任委員会委員長よりそれぞれ審査報告があり、討論、採決の様子を傍聴しました。それぞれの採決に当っては厳粛なうちに「起立」による賛成多数で可決する場合もあれば、全議員賛成の「起立」による議決もあるということをつぶさに拝聴することができました。

私はこうした審議状況を深く認識し、町民の代表としての責務が充分果されていることに感銘を受け、次回にはゆっくり傍聴したいと思っております。

選挙管理委員と 補充員が改選

平成6年12月25日、現入善町選挙管理委員と選挙管理委員補充員の任期（4年）が満了し、次の方々が新しく選ばれた。

●選挙管理委員

- 稲村 公男（入 膳）
- 宝田 雄幸（上 野）
- 木本 勇二（木 根）
- 永原 広由（五郎八）

●選挙管理委員補充員

- 鬼原 文二（浦山新）
- 杉本 安彦（八 幡）
- 藤塚 明義（舟 見）
- 松田 誠一（小 杉）

寸言

選挙管理委員・補充員とは…

選挙管理委員・選挙管理委員補充員は、選挙権を有する者で人格が高潔で、政治及び選挙に公正な識見を有するものの中から議会で選挙する。

法律の定めるところにより行われる選挙、投票又は国民審査に関する罪を犯し刑に処せられた者は委員になることはできない。

また、2人が同時に同一の政党その他政治団体に属する者ではないけない。

(地方自治法・第182条)

議会日誌

十月（かなづき）

- 18日 決算特別委員会
- 19日 決算特別委員会
- 20日 決算特別委員会
- 20日 議会だより編集委員会
- 24日 決算特別委員会視察
- 25日 決算特別委員会視察
- 31日 決算特別委員会

十一月（しもつき）

- 1日 議会運営委員会
- 2日 決算特別委員会
- 4日 決算特別委員会
- 7日 決算特別委員会
- 9日 議会行政視察
- 12日 議員定数等検討委員会
- 15日 地域活性化対策特別委員会
- 21日 会
- 28日 決算特別委員会
- 28日 議会運営委員会

十二月（しわす）

- 1日 議員定数等検討委員会
- 5日 新川広域圏事務組合議会
- 7日 新川広域圏事務組合議会
- 7日 第9回議会定例会
- 20日 新川広域圏事務組合議会
- 26日 新川広域圏事務組合議会
- 9日 一月（むつき）
- 13日 議会だより編集委員会
- 19日 議会だより編集委員会

編集の窓

◆ 気象庁の暖冬予想のわりに、は雪の降る日々が続きます。景気も不況から脱しつつあると言われるがどうなるだろうか。政治の対応が望まれる昨今です。

◆ 12月議会で大きな問題になった、「ごみ袋の単価」は適当か、新川広域圏の対応を見守りたい。

◆ 21世紀に向けて時代の変化と町の将来像をどのように結合させるか重要な時期を迎え、自ら定数問題と取り組み結論をだしました。

◆ 地方分権がとり沙汰される今日、町民のニーズも多様化しどう応えるか、安易な妥協は許されない。

◆ 議会は、「執行権と議決権」を今一度、真実に勉強し、町民の付託に応えたい。

◆ 今年こそ、明るい年になることを願い、筆を置こうとした矢先、「兵庫県南部地震」が発生、心からお見舞い申し上げます。関西入善会のみなさんのご無事を祈ります。天災は忘れた頃にやってくる。備えあれば憂いなし。肝に銘ずべし。